

実践団体情報

記入日	2019年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	新潟市立白南中学校
代表者名	校長 中林 浩子
プラン全体のタイトル	オレンジはレスキューの魂 ～白南地域は私たちが支えます～
電話番号	025-375-1250
メールアドレス	J601hakuan@city-niigata.ed.jp
実践団体の説明	当校は、2003年に中学校統廃合により、新しく創設された学校である。校区は輪中地域にあり、65歳以上の高齢者が多い。住民の多くは川を渡っての通勤・通学が多く、平日の災害発生時は、中学生の力が求められている。
所属メンバー	(代表)校長：中林 浩子 (担当)教諭：宮崎 威治
活動地域	新潟市立白南中学校区 新潟市南区
活動開始時期・結成時期	2019年7月

プラン全体の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家を招聘し、校区内の災害の危険性や前触れを知る。 2. 校外学習で過去の被災地にある資料館を訪問し、見学・体験・講話で被災状況の現実を知る。 3. 講師を招聘し、旧山古志村の全村避難を通して、「地域を支える力は何か。」に気づく。 4. 発災直後と中・長期の避難所運営と防災訓練のありかたについて考え、地域に提言する。
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災教育チャレンジプラン予算確定		
5月	南区未来創造教室予算確定	各講師、訪問学習先に依頼開始	
6月		校外学習バス予約	
7月		HUG購入	校区内7カ所の避難所調査
8月		各講師と打合開始	
9月			講演「南区の災害について知る」 校外学習 「過去から学ぶ」
10月			講演「地域を支える力は何か」 発災直後の避難所運営について（HUG等を活用）
11月			避難所中・長期の運営について（福島大学さすけなぶる）
12月			避難所運営と防災訓練の提言
1月		来年度の地域の防災訓練についての検討会	計画・立案（小学校・朝雨が香の教職員、地域住民）
2月			
3月			

プラン全体の反省点・課題・感想	他の学校行事との関係から、9月から12月に活動が集中したため、考えて練り上げるなどの時間の確保が充分でなかった。また、住民参加の視点から、同一人物が継続的に参加することが難しかった。
-----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

<p>今後の活動予定</p>	<p>今回の活動で3地域を融合した防災訓練や防災学習の必要性に気づく提案が良かった。来年度、今回得た知見に基づく防災訓練や防災学習を行うために、1月末に1中学校と3小学校、地域住民が集まり、計画を立案する。</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実践したプランの内容と成果

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	1
タイトル	南区の災害について知ろう
実践担当者のお名前	教諭 宮崎 威治

実践にかかった金額	3万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年9月27日13時40分～15時30分
実践の所要時間	1時間50分
実践の運営側で動いた人の人数	6人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民
防災教育の対象者の人数	約170人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県新潟市
実践を行った具体的な場所	新潟市立白南中学校体育館

達成目標	居住地周辺の災害の危険性や前兆を知る。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	新潟県や日本各地で最近起きた地震や水害の映像、居住地域付近の活断層の分布図や地形図、航空写真等を活用しながら自然現象の特性や災害の危険性、前兆を学んだ。	
得られた成果	生徒が居住地域の災害について、最初に学ぶのが家族や地域住民である。しかし、正常バイアスが働き、深刻に考えてはいなかったため、専門家による正しい知識を得る重要性を感じていた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫	<p>大学教授から中学生にも分かりやすく講演を行っていただくには、事前の打ち合わせがカギになる。</p> <p>また、講演は前半講演、後半はそれに関連したWS型にするなどの工夫が必要であり、学んだことをアウトプットする時間を短時間でもとるとより学びが深まる。</p>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	新潟大学 災害・復興科学研究所 教授 卜部 厚志 様
関係者の説明	研究分野：災害科学、地質学
関係者の連絡先	電話番号：025-262-7051

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	生徒と地域住民
伝えたい内容	災害発生のメカニズム

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	2
タイトル	過去から学ぶ、現地で学ぶ 校外学習
実践担当者のお名前	教諭 宮崎威治

実践にかかった金額	30万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年9月30日8時30分～15時30分
実践の所要時間	移動時間 往復2時間30分 訪問時間2時間 生徒間の情報交換 2時間
実践の運営側で動いた人の人数	14人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約160人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県 三条市、長岡市、小千谷市、柏崎市、新潟市
実践を行った具体的な場所	校外学習：三条市水防学習館、やまこし復興交流館おらた る おぢや震災ミュージアムそなえ館、柏崎市民活動センター
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災コーディネーター

達成目標	新潟県で起きた中越地震、中越沖地震、新潟・福島豪雨の様子を伝える資料館を全校生徒が分担して訪問し、実際の話聞くことをとおして、災害時の様子を実感として捉えさせる。	
どの力を身につけようとしてきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	新潟県で起きた中越地震、中越沖地震、新潟・福島豪雨の様子を伝える資料館を全校生徒が分担して訪問し、見学・体験をしたり、発災時や避難所の様子について、話を聞いたりした。 その後学校に戻り、生徒間で情報交換を行った。(知識構成型ジクソ一法)	
得られた成果	発災時や避難所での様子について、映像や体験、語り部の話をとおして、イメージすることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	複数の施設を同時に訪問するので、日程調整に苦労した。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について		
関係者の名前・団体名と連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三条市水防学習館 Tel0256-35-6520 ・ やまこし復興交流館おらたる Tel0258-41-1203 ・ おぢや震災ミュージアムそなえ館 Tel0258-89-7480 ・ かしわざき市民活動センターまちから Tel0257-22-2003 	
関係者の説明	防災コーディネーター等	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全ての人
伝えたい内容	現場を訪れ、現物を見て、現実を知ることが何よりも印象に残る。

記入日	2020年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	3
タイトル	地域を支える力は何か
実践担当者のお名前	宮崎 威治

実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月9日13時40分～14時40分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	6人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約160人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県新潟市
実践を行った具体的な場所	新潟市立白南中学校体育館

達成目標	災害に遭ったとき、地域を支える力は大人だけではなく、若者も含め 地域全体で取り組むこと、大人と若者の連携が大切であることに気づかせる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	講演 中越地震の際、旧山古志村はライフラインが途絶え、土砂崩れも多発する中、村長にいち早く情報が集めることができたのはなぜか。 電気が途絶えた暗闇の中、ヘリコプターが着陸できたのはなぜか。	

得られた成果	救助や全村避難の指揮を執った方の話は、生徒の胸にこみ上げるものがあり、自分たち中学生にもいざという時に何かできるのではないかと、地域を知ること、地域の大人との協力の必要性に気づいた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	元新潟県警察本部警備部機動隊長 嶋田啓介 様
関係者の説明	中越地震時、救助と旧山古志村全村避難の指揮を執った。
関係者の連絡先	新潟県警察本部 0250285-0110

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全ての人
伝えたい内容	有事に必要な地域の協力

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	4
タイトル	避難所運営計画 短期編
実践担当者のお名前	教諭 宮崎 威治

実践にかかった金額	5万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年10月30日13時40分～15時30分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	6人
防災教育の対象者の属性	中学生・地域住民
防災教育の対象者の人数	約170人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県新潟市
実践を行った具体的な場所	新潟市立白南中学校 各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	避難所HUG（静岡県）、 避難所運営ラーニング（熊本県教育委員会）

達成目標	発災時に避難所で起こる様々なできごとに対応するかを疑似体験することをとおして、新たな気づきや視点を獲得する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	教職員研修を行った後、生徒と地域住民が別々にグループを作り、校区内7カ所の間取り図をもとに、避難所運営ゲームを行った。	
得られた成果	カードに書かれてある内容を通して、避難所で起こる様々なことを想像できた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫	<p>HUGの数を用意する費用がかかる。</p> <p>熊本県教育委員会の避難所運営ラーニングのカードは無料だが、数を作るのに時間と人手がかかる。</p>
----------	-------------------------------------------------------------------------------

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	新潟市立白南中学校教職員
関係者の連絡先	025-375-1250

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全ての人
伝えたい内容	カードの内容を見るだけでも疑似体験ができる。

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	5
タイトル	避難所運営計画 中・長期編
実践担当者のお名前	教諭 宮崎 威治

実践にかかった金額	30万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	2019年11月11日13時40分～15時50分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	10人
防災教育の対象者の属性	中学生・地域住民
防災教育の対象者の人数	約170人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県新潟市
実践を行った具体的な場所	新潟市立白南中学校体育館
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	さすけなぶる研究会ファシリテーター

達成目標	避難所運営が中・長期化する中、避難所内ではどのような課題が発生するかを把握し、どう対応するかを疑似体験することをおして、様々な避難者を多面的・多角的に捉えようとする意識や態度を育てる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>講演</p> <p>避難が中・長期化する中で、どのような課題ができるかを把握した。</p> <p>ワークショップ</p> <p>様々な課題について、グループで解決策を話し合い、理由も含めて発表する。</p>	

得られた成果	避難所者へ接する時は、「さりげなく」、「すばやく」、「けむたがらずに」、「ないものねだりはやめて」、「ふるさとのように」の5つのキーをもとに個々の問題を解決する意識を育てることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	ファシリテーターの人数と予算の調整が大変であった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	福島大学うつくしま福島未来支援センター さすけなぶる研究会
関係者の説明	さすけなぶる研究会から派遣された4名のファシリテーターで行った
関係者の連絡先	024-504-2865

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全ての人
伝えたい内容	避難者の見取りと接し方の多様な視点

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	新潟市立白南中学校
実践番号	6
タイトル	避難所運営と地域の防災訓練について、地域に提案しよう
実践担当者のお名前	教諭 宮崎 威治

実践にかかった金額	3万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年12月2日13時40分～13時50分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	10人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約210人
実践を行った都道府県と市区町村	新潟県新潟市
実践を行った具体的な場所	新潟市立白南中学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	新潟市南区長、新潟市南区役所地域総務課、防災士、防災コーディネーター

達成目標	校区内7カ所の避難所運営のありかたや効果的な地域の防災訓練のあり方を生徒の視点から探り、学び、考え、具体的に発信していく活動をとおして、郷土愛と他者貢献にあふれる豊かな心の育成を図る。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p><一連の学習のまとめ></p> <p>①HUGで考えた避難所の部屋割り等の振り返りを行う。</p> <p>②さすけなぶるの視点から、①で行った部屋割り等を見直す。</p> <p>③避難所運営を見直した視点、気づき、どんなことを大切にしたいかなどを模造紙にまとめる。</p> <p>④今までの学習をとおして、今後の地域の防災訓練のあり方について考え、まとめる。</p>	

	<p>⑤話し合った具体的な内容を交流する。</p> <p>以上の学習を地域・教職員も入ってともに考えていく。</p>	
得られた成果	<p>①避難所での気配り、思いやりに気づき、行動する意欲や態度を高めた。</p> <p>②地域の防災訓練について、様々な角度から内容を検討し提案することをおして、郷土を愛する気持ちを高めた。</p> <p>③来年度の防災訓練に向けて校区内の小学校と地域が動き始めた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<p>同一の地域住民が継続して参加できたわけではないので、それまでの学習内容を参加した地域住民に理解してもらうための学習活動を展開した。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	NPO法人 ふるさと未来創造堂 常務理事 中野 雅嗣 様
関係者の説明	地域に根差した防災教育の推進をサポートするNPO法人
関係者の連絡先	Tel 0258-94-6119

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全ての人
伝えたい内容	避難所運営の配慮事項と防災訓練のあり方